

授業科目名	エアラインツーリズム実践研究Ⅰ・Ⅱ	担当教員名	萬谷 和歌子			
科目区分		単位	配当年次	実施時期	科目区分	単位
エア・クルーズツーリズムコース 専門科目 C 群	選択必修	Ⅰ：2 単位 Ⅱ：2 単位	3	Ⅰ：春学期 Ⅱ：秋学期	別途案内	講義
授業概要 1903 年にライト兄弟が世界初の動力飛行に成功してから約一世紀の間、航空産業は世界の政治や外交、人々の生活に大きな影響を与えてきました。この授業では航空輸送産業や航空政策、航空サービスに焦点をおき、まず文献などを輪読した後、グループ単位で興味のある研究テーマを選択し、調査研究や報告を行います。その成果が 4 年次の個人研究を主とする卒業論文につながるように進めていきます。						
到達目標 - 現代の航空産業、航空政策に関する専門的な知識を習得する - グループでの研究を進め、問題意識を明確にし、情報収集力、文献読解力、分析能力、チームワークを養う 3 年次修了時点で研究テーマを絞り、4 年次の卒業論文執筆へ向けてスムーズに移行できるようにする						
授業方法(展開) - 世界・日本における航空業界の現状を理解し、基本的な知識を習得する為、文献を輪読する - 現存する問題を把握し、この一年の研究テーマを決め、研究計画を作成する(グループ) - それぞれの研究計画に沿った調査研究や分析の実施(適宜中間報告を行う) - 夏休み課題レポートの作成、最終報告(クラス内)および最終報告書の提出						
関連科目・知識・スキル 2年間継続して研究を行うため、<u>航空分野に強い関心のある学生</u>を求めます。 - このクラスの履修者には、3 年次での「航空ビジネス論」、「空港業務論」、「現代航空事情」、「地域振興と航空政策」の履修を強く勧めます。						
成績評価 - 授業への参加姿勢(40%)、研究報告の内容(30%)、各種課題の提出(30%)で評価します。 - 授業に積極的に取り組む姿勢が見られない場合は、規定の出席回数をクリアしても単位の認定はしません。						
教科書・参考書など 教科書：特に指定しません。 参考書：ANA 総合研究所編(2008)『航空産業入門』 東洋経済新報社 村上英樹他 編著(2006)『航空の経済学』 ミネルヴァ書房 *適宜、テーマに沿った文献を紹介します						
履修上の注意事項 - 研究はグループ単位で行います。皆で協力し、公平に分担して研究を進めるように心がけて下さい。 - 実践研究は総合研究と合わせて今後 2 年間継続する授業であるため、学生の意欲と適性を判断する為に、<u>履修希望者全員に面接を課します。</u> <u>面接は 2 月 14 日(木)13 時～18 時、2 月 15 日(金)13 時～17 時で実施します。面接を受けない学生の履修は認めません。面接希望者は当日事務局まで申し出ること。</u> <u>留学中の学生には志望理由書の提出を求めます(400 字程度)。希望者は、日本時間の 2 月 20 日(水)までに、別途メールで提出して下さい(提出先:cls@kobeshukugawa.ac.jp)。</u> - 定員以上の希望者があった場合、成績、面接結果あるいは志望理由書から総合的に判断して履修者を決定します。						

授業の柱(単元)と授業スケジュール

【春学期】

第1回 オリエンテーション

- ・ 授業の進め方と自己紹介

第2回～第10回 文献輪読

- ・ 航空関連の文献を報告者（グループ単位）が事前に読み、その内容をまとめたものを発表する。教員はそれに対する補足説明をした後、クラス内での討論をする。

第11回 研究テーマの決定、研究計画の作成

- ・ 文献輪読から得た知識をもとに、グループで研究テーマを決定し、年間の研究計画を作成する。

第12回～13回 研究計画の発表

- ・ グループで研究計画を発表する。

第14回～第15回 調査研究の実施

- ・ 各グループの研究テーマに関する調査研究を行う。適宜、教員が研究指導を行う。

【夏休み】 課題レポート作成

課題はそれぞれ研究テーマに沿った内容とする。

【秋学期】

第1回～第3回 夏休み課題レポートの報告

- ・ 夏休み課題レポートの報告を行う。

第4回～第13回 調査研究の実施および中間報告

- ・ グループで研究テーマに関する研究を行い、適宜結果を発表する。
- ・ この間、2回程度の中間報告を行ってもらう予定

第14回～第15回 研究報告会（クラス内）

- ・ グループで研究テーマに関する最終報告を行う。（一年間の総まとめ）

＊ 研究の進捗状況により、スケジュールが変更になる可能性があります。

＊ 航空業界や研究の内容を深めるために、適宜、航空関係者のゲスト講師招聘や施設見学などを実施する予定です。

学生への一言

- ・ 授業内容は航空業界への就職に念頭をおいたものではありませんが、航空業界・サービス業・空港関連職への就職を希望し、目標に向かって努力できる学生も歓迎します。
- ・ 2年間の研究を通して培った知識や能力、努力は、目には見えなくとも一生の宝になります。是非神戸から世界へ羽ばたいて下さい。

授業科目名	エアラインツーリズム総合研究Ⅰ・Ⅱ			担当教員名	小島 克巳	
科目区分		単位	配当年次	実施時期	曜日・時限	形態
エア・クルーズツーリズムコース 専門科目 C 群	選択必修	Ⅰ：2 単位 Ⅱ：2 単位	4	Ⅰ：春学期 Ⅱ：秋学期	別途案内	講義

授業概要

この授業では、3 年次のエアラインツーリズム実践研究Ⅰ・Ⅱでの研究成果を踏まえて、航空業界や航空政策に関連するより専門的な研究テーマについて個人単位で調査研究と報告を行い、最終的にそれらの研究成果を卒業研究として論文にまとめることを目標とします。

個人で調査研究と報告を行ってもらい、それに対して教員がコメントとアドバイスを行う授業形態をとりますので、履修する学生には授業への積極的な取り組みが求められます。

到達目標

- ・ 航空業界や航空・空港政策に関するより専門的な知識を身につける。
- ・ テーマの研究を進めながら課題発見能力や分析能力を養う。
- ・ 発表や討論の機会を通して資料作成能力やプレゼンテーション能力を高める。
- ・ 論文執筆を進めながら論理構成力と文章作成能力を高める。

授業方法(展開)

3 年次のエアラインツーリズム実践研究Ⅰ・Ⅱから
(3 年次の研究成果を踏まえて、4 年次では各自でテーマを設定し卒業研究に取り組む。)

↓

卒業研究テーマの決定の研究計画の作成

↓

それぞれの研究計画に沿った調査研究や分析の実施（適宜、中間報告）

↓

卒業研究（論文形式）の作成および提出

※ 航空業界や研究内容の理解を深めるために、適宜、航空関係者のゲスト講師招聘や施設見学などを実施する予定です。

関連科目・知識・スキル

- ・ 3 年次開講の「エアラインツーリズム実践研究Ⅰ・Ⅱ」の履修を前提とします。

成績評価

- ・ 授業への参加姿勢（40%）、卒業研究（中間報告、最終報告、論文内容）（60%）で評価します。
- ・ 授業に積極的に取り組む姿勢が見られない場合は、規定の出席回数をクリアしても単位の認定はしません。

教科書・参考書など

- ・ 井上泰日子（2008）『航空事業論』日本評論社
- ・ ANA 総合研究所編（2008）『航空産業入門』東洋経済新報社
- ・ 国土交通省航空局（2012）『数字でみる航空 2012』航空振興財団
- ・ スティーヴン・ショー（2009）『航空の経営とマーケティング』成山堂書店
- ・ 中条潮（2012）『航空幻想』中央経済社 など

履修上の注意事項

- ・ 授業は初回を除き、原則 2 週間に一回 2 コマ連続で実施します。（授業スケジュールの欄を参照のこと）。
- ・ 卒業研究として論文（字数 12,000 字以上）の提出を義務づけます。提出しない場合は単位を認定しないので注意してください。

授業の柱(単元)と授業スケジュール

【春学期 15 回】（いずれも火曜 4,5 限、ただし 4/9 は 4 限のみ）

第 1 回 オリエンテーション（4/9）

- ・ 講義計画と授業の進め方の説明

第 2 回、第 3 回 卒業研究テーマの決定、研究計画の作成（4/23）

第 4 回～第 13 回 卒業研究の実施および中間報告（5/7, 5/21, 6/4, 6/18, 7/2）

- ・ 各自それぞれの研究テーマに沿って調査研究を行い、適宜その結果を報告する。

第 14 回～第 15 回：第 1 回ゼミ内研究報告会（7/23）

【秋学期 15 回】（いずれも火曜 4,5 限、ただし 10/1 は 4 限のみ）

第 1 回 オリエンテーション（10/1）

第 2 回～第 13 回 卒業研究の実施および中間報告（10/15, 10/29, 11/19, 12/3, 12/17, 1/7）

- ・ 引き続き、各自それぞれの研究テーマに沿って調査研究を行い、適宜その結果を報告する。

第 14 回～第 15 回：第 2 回ゼミ内研究報告会（1/21）

- ・ 2 年間の総仕上げとして、それぞれの研究テーマに関する最終報告を行い、その結果を受けて卒業論文として仕上げる。

学生への一言

- ・ 4 年間の大学生活の集大成として卒業研究に臨んでください。